

甲斐の金山から

平成30年3月29日 第83号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

はるがきた♪
博物館周辺も桜満開
春爛漫



気候が良くなると6種類の桜が咲きはじめるリバーサイドパーク。春の訪れとともに、もーん父さんも活発に活動しています。博物館はというと、38万人目のお客さまを新年早々に迎え、4月24日で21年目に突入。

新年度もたくさんのお客様がきてくれるよう、スタッフ一同、気を引き締めて参ります。企画も盛りだくさん。お楽しみに。

《金山博物館の周辺から話題をひろって・2》

“伊藤六兵衛さんの次男坊”のこと—木喰生誕300年に寄せて—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

皆さんは「伊藤六兵衛」さんをご存知でしょうか。六兵衛さんのことは、あまりご存じなくても六兵衛さんちの次男坊のことは、きっと耳にしたことがあるかもしれません。

今年は、六兵衛さんちの次男坊が生まれてから300年経過となるメモリアルイヤーに当たります。なので、次男坊ご本人に焦点を当てなければならぬのですが、個人的には六兵衛さんの方が面白いのです。次男坊が活躍して名を残した背景には、この六兵衛さんのお力があったからこそ、もっと言えば、六兵衛さんの在所の力と言うべきかもしれません。

今回の話、まったく雲をつかむような気配で始まりましたが、そろそろ核心に入っていくか…と。まず、六兵衛さんとその次男坊と湯之奥金山博物館がどう結び付くのかということから始めましょう。

湯之奥金山博物館を訪ねられた方は、正面玄関からエントランスホールに入り、受付カウンターで館のサービスメニューの案内を受ける流れになりますが、玄関に入ってすぐ風除室の右手に、数体の木彫が皆様のご来館を歓迎しております。この木彫について、金山とは関係なさそうと素通りされる方も多いのですが、その前でしばし見入られる方もおられます。

この木彫は、地元の放送局「テレビ山梨」さんが1989年9月放映の開局20周年記念番組『旅へ…微笑仏になった男 一木喰上人二万キロの足跡を辿って』を制作された際、番組の中で「微笑仏」を刻む木喰上人の姿の再現過程で出来上がった作品群でありました。

この番組の主人公の木喰上人その人が、実は六兵衛さんの次男坊なのです。そしてその六兵衛さん親子が住んだ村は、甲斐国八代郡の丸畑（現在の身延町北川のうち）で、当館の所在地からすると目と鼻の先の場所に当たります。

さて摸刻復元された微笑仏たちは、番組放映の後しばらくして山梨県立考古博物館に寄託されていましたが、時が巡り、縁あって身延町内の当館（7体）と木喰の里微笑館とが、新たな寄託先となっているのです。

車社会の現代に、丸畑の地を訪ねると大変な山間僻地と感じる方が多いかと思われます。しかし、木喰上人が活躍された江戸時代には、当地は社会経済の交流の拠点とも言える状況にありました。

どんな根拠でそうしたことが言えるのでしょうか。これについては、はじめに触れた六兵衛に再度登場していただくこととなります。

丸畑の六兵衛さんの家の場所を尋ねると、その裏山の一角にいくつかの石造物が立ち並ぶところがあります。そこにはたいへん重要な情報が残されています。

例えば板東・秩父や西国、四国などの霊場を巡礼したことを記念した石碑であったり、享保4～5年に一時的に大流行した岩船地蔵さんの碑だったりするのです。これらのものは、六兵衛さんが秩父霊場や四国八十八霊場などを回ったり、時代の流行の信仰を受け入れたりする知識の広がりや財的裏付けがあったことを物語るものであり、こうした六兵衛さんを親に持ったが故に、その次男たる木喰上人が生家を離れ、北は北海道から南は九州まで足で回って信仰の道を究め、全国各地に特徴的な木彫「微笑仏」を残すことが出来たのだと考えるものです。

ともあれ木喰生誕300年ということで、わが身延町では、なかとみ現代工芸美術館を会場に記念の特別展が、7月14日（土）～10月21日（日）の会期で開催されます。今回はちょっとしか触れることができなかった六兵衛さんの記念碑のことなども含め、身延町の歴史の興味深い一断面が紹介されることと思われます。どうぞ皆さまご期待の上、展覧会が始まりましたらぜひ会場にお運びください。



3百年の歴史を伝える
博物館入口の摸刻微笑仏

活動報告

企画展「こなしのしくみ～鉾山臼の形態分類～」

1月28日(日)～3月25日(日)



開館20周年記念事業の一つとして1月28日からスタートした企画展「こなしのしくみ」。1階の多目的ホールにその数約120点の鉾山臼が一堂に並びました。300点以上を誇る当館の収蔵鉾山臼から選りすぐった鉾山臼を体系的に一度に見ることができるとして、期間中多くのお客様がご覧いただきました。約一か月の開催期間を春休みシーズンに合わせて会期延長し3月25日まで開催しました。

テーマはタイトル通り、普段の生活の中ではほとんどの人が思い浮かべることすらないであろう「鉾山臼」について。サブタイトルの「鉾山臼の形態分類」ということで、臼の基本である湯之奥型、黒川型、定形型を分かりやすく展示するため、甲州市教育委員会より黒川金山の黒川型上下臼と磨り臼を、そして毛無山の尾根を挟んで静岡県側の麓金山で使用されていた竹川家所有の定形型上下臼を借用しました。

同時代に生きる金山の職人集団たちが同じ県内もしくは隣同士にしながら鉾山臼の製作技術や使用

方法にぴったりとした共通項が見当たらないことなどから、各地の金山遺構で発見されている独自の形式を持った鉾山臼を比較しながら、鉾山臼の歴史、機能や仕組みを分かりやすく解説した企画展となりました。個体差はあるものの、おおよそ平均が30～40kgの鉾山臼の中で最も重かったのは105kgの下臼。移動させた総重量を出すとなんと2.5t。

今企画展の一番の目標は、なんとなく臼って面白く思えて、臼の謎がより深まるけれど退屈しないで見ることができる展示。遺物として出土した鉾山臼には完全な形や、作りかけのもの、割れて廃棄されてしまったものなど、さまざまな鉾山臼が並ぶ中で展示解説を聞いたお客様は、大変面白く見ることができたという感想を持ってくださったようです。

展示の最後には、桜型の付箋を用意しご覧になった感想を書いていただき桜の木を満開にするという感想ノートならぬ感想付箋を用意。会期終了時には、多くのご感想をお寄せいただいた桜の幹は満開になりました。

38万人目のお客様をお迎えしました！

1月7日(日)



新年明けて間もない1月7日の日曜日、この日は身延町でも成人式が行われていた日ですが、その午後一番に、当館では開館以来38万人目の有料入館のお客さまをお迎えすることができました。

新年明けて間もない1月7日の日曜日、この日は身延町でも成人式が行われていた日ですが、その午後一番に、当館では

今回、ラッキーな偶然に巡り合ったのは、いつも砂金採りを楽しみに甲斐市からお見えくださる松井正己さん。

この日はご夫妻おそろいで醍醐山に登る計画だったのですが、予定を変更して当館にご来館くださったところ38万人目となられたのでした。松井さんには、出月館長から記念品と花束が手渡され、「新年早々おめでとう、今年はラッキーだね。」と、大変喜んでくださいました。

第6回金山遺跡・砂金研究フォーラム

2月3日(土)



6回目の研究フォーラム、発表者7人、ポスターセッション4名と賑やかに50名を超えるたくさんの方にご参加いただき大盛況で終わりました。

フォーラム常連、岐阜県の広瀬義朗さんは「きんじゆ韓国の慶州で採れた金は自然にできたものなのか、はたまた加工されたものなのか」という疑問について、金の組成を調べるという方向からアプローチ。新潟県各地の金山について発表くださった愛知県の中村軒一さんは、実際に入った坑道の写真や、川での砂金採りの様子など自身のフィールドワークについて誰にとっても身近な話題で発表。

長野県の宮坂隆志さんは、記念講演会第3弾でお話くださった笹本先生の講演会の中で、長野県・高遠周辺の金山について知り、その周辺のフィールドワークの結果をご報告くださいました。

今年初参加で初めての発表をしてくれた東京都の岩井一泰さん。20年前に勤務していたギニア金鉱山での体験を分かりやすく発表くださり、加えて現地の方がパンニングに使う瓢箪や、石食いのナゲットなど、貴重な資料を見せてくれたりと、会場は大きな驚きとちょっとした笑いに包まれました。

松江高専の久間英樹先生は、3次元計測データと当時の絵図がどのくらい正確なのか比較

してみよう！というテーマ。絵図では直線に描かれている坑道が実際はグネグネ曲がっていたというお話や、12月の中山金山調査の測定結果などを動画を交えて発表くださいました。「時間がなくて今年は作れない」とおっしゃっていたのにやっぱりお土産を作ってきた久間先生からのサプライズ。フォーラム参加者からは「毎年楽しみ」とプチイベントのようになっていますが、今年はなんと組み立て式のもん父さん貯金箱。一人で70セット作られたという久間先生。「これを欲しい方は、今日からこつこつ次回のフォーラムまでにたまった1割を寄付していただくルールです。」という言葉に笑いが起きました。

フォーラムのトリを飾った兵庫・灘中高の野村敏郎先生は、昨年に引き続き砂金回収率の検証についての発表。3種類のスルースボックスの性能比較を、スルースボックスの原理からわかりやすく解説くださいました。実験結果としては大きな性能の違いがみられなかったものの、いずれも高性能だということが実証されました。会の締めくくりに、早川町のNPO法人日本上流文化圏研究所理事長の大倉はるみ先生に「いつ来ても新しい知見を得ることができて、かけがえのない宝物をいただけます。」と総評をいただきましたが、今年も素晴らしい研究発表会となりました。



20周年記念講演としても年度内事業としてもラストとなった西脇康先生のご講演。当日はラストに相応しいお天気にも恵まれた中、大勢のお客様にご聴講いただきました。西脇先生は

ご講演の中で、古文書を題材にしなが、そこに書かれているものだけでなく、行間をどのように読むか、当時の歴史背景を視野に入れながら書かれている内容を分析すると違う側面が見えてくることを、分かりやすくお話くださいました。ご聴講された方のほとんどが「今更ながらとても勉強になった」という声をくださいました。その後、ご質問のあった方は先生に直接伺っている様子も多々見受けられ、先生は丁寧にご対応くださっていました。そんなこともあり、講演が終わった後もずいぶんと館内にはぎわい、多くのお客様にご満足いただき、今年度ラストイベントを賑やかに飾ることができました。

イラストコンテストたくさんの応募ありがとうございました



グランプリ：中村絵美さん(東京都)



準グランプリ：野口姫星さん(身延町)

『もーん父さんイラストコンテスト』に多くの皆様のご応募をいただきました。開館20周年記念で実施したイラストコンテスト。入選作品をグランプリ他、厳選のうえ15点が選ばれ、昨年11月中旬から3月末までの間、町内の施設店舗にてご協力いただき、応募いただいたすべての作品はセルバ身延店さん、なかとみ和紙の里、身延町立図書館、ラストは山梨中央銀行身延支店さんと、身延町内各施設・店舗のご協力のもと巡回展示をさせていただきました。

博物館ホームページでは、イラストが審査コメントとともにご覧いただける特設ページがありますので、ぜひご覧ください。



優秀賞 左上、右上、左の順に
中村咲葵さん(東京都)
寺嶋由葉さん(千葉県)
辻下菜楓さん(東京都)



佳作10名：PN・松ちゃん(神奈川)、中澤寿夫さん(山梨県)、仁井田竜騎さん(神奈川県)、亀尾優子さん(兵庫県)、渡辺清人さん(静岡県)、日原康平さん(山梨県)、日原美紀さん(山梨県)、辻下柊有さん(東京都)、本間純さん(千葉県)、みさきさん(山梨県)が入賞されました。おめでとうございます！

多田金銀銅山モノづくり体験教室

3月10日(土)



銅、銀、金の歴史や生成のメカニズムについて解説する井澤先生

去る3月10日、当館は兵庫県猪名川町の多田銀銅山でのモノづくり教室に講師として現地へ赴きました。「金属を溶かしてみよう」と銘打った事業で、当館に依頼されたその内容は、山金の作業を伝えながら、灰吹を体験させること。簡単にいうとこども金山探険隊の「灰吹・色揚げ」の出張です。関西方面では初めてのイベントということもあり、予想を倍以上上回る30人ほどの方がお申込みおいでくださいました。

九州大学名誉教授の井澤英二先生の金銀銅と地質のお話をいただいた後、約二時間少々



初めて見る“灰吹”に興味津々の参加者たち



完成品に満足気

の時間での灰吹と色揚げ作業。博物館の外にでて灰吹きを行うことは初ですし勝手が違うという点に多少の心配はありましたが、参加された方も「こういう作業があることを知らなかった」とか「面白かった」とい

うご意見をいただけて、大人もお子様も楽しんでいただけたので、館としては十分に責務を果たせました。

午前中の部が終わってお昼を挟んで午後からまた場所を変えて、今度は銅の実験。絵巻に描かれている昔の方法を再現し、色の赤い棹銅を作ろうという伊藤幸司先生の実演で行われた実験を、参加者の皆さんとともに見学させていただきました。100度に沸騰したお湯ならば1000度を超える真っ赤に溶けた銅を流し込んだ場合でも爆発しないというのも、初めて見る方にとってはとても驚きのことだったと思いますが、伊藤先生曰く、様々な試行錯誤を繰り返してやっと成功したという、真っ赤な棹銅が出来上がるその様子に見学者は皆惹きつけられていました。



溶けた銅を流し込む伊藤先生。この実演の一番の見どころ

2018年 博物館年間イベント予定表

4月21日(土)～ 7月1日(日)	身延線全通90周年記念 写真パネル展「みんなの身延線 思い出の電車たち」	身延線開通90周年を博物館でも写真でお祝い！詳細は、8Pご覧ください。
6月30日(土)	東京ゴールドフェスティバル	“金の祭典”に今年も博物館とも一ん父さん参加！
6月中	黒川金山遺跡見学会	武田氏ゆかりの金山遺跡へ行けるまたとない機会。今回は、湯之奥・中山金山と共に国指定史跡となっている甲州市・黒川金山を見学します。
夏休み期間(7月 15日～8月26日)	夏休み自由研究プロジェクト in 金山博物館	「自由研究どうしよう・・・。」そんなアナタに朗報！出月館長に相談してみよう！新たな発見がきっとある。
7月15日(日)	第10回化学実験教室	不思議な化学の世界を体験してみよう！宮本一弘先生による、とても面白い大人気教室！
7月28日(土)	第18回砂金掘り大会	ここでしか体験できない、“日本最大”の砂金掘り大会。熱い砂金掘りバトルを見逃すな！
7月29日(日)	第15回東西中高交流砂金掘り大会	IQは砂金の数に比例するか！？東西中高による、砂金掘りNo.1校決定戦ここに開幕！
8月1日(水)	ゆるキャラグランプリ2018 投票スタート(11月9日まで)	インターネット投票にて1日1回投票可能。「も一ん父さん」に温かい投票をお願いします！※本年度はエントリー、投票のみの参加です。
8月11日(土) ～12日(日)	第18回こども金山探検隊	金山遺跡登山にオリジナル甲州金作りetc.の大人気親子体験プログラム！定員オーバー必至。申込み急げ！
9月9日(日) ～15日(土)	みのぶ町民感謝ウィーク！	期間中、町民の皆さまは観覧・砂金採り体験1割引のスペシャルウィーク！ぜひ足をお運びください。
10月中	中山金山遺跡見学会	私たちの住んでいる町の金山遺跡を見に行こう！運が良ければ富士山を見渡せるかも！？
11月24日(土) 25日(日)	世界キャラクターさみっとin羽生	も一ん父さん、いきまーす！全国各地のゆるキャラが埼玉県・羽生水郷公園に大集合。超有名キャラにだって会えちゃうかも！？
12月中旬	オリジナル♡じえるキャンドル作り 体験教室	カラフルな砂やガラス細工を使って、コップの中に自分だけの世界を作っちゃおう！
2019年2月上旬	第7回金山遺跡・砂金研究 フォーラム	博物館応援団主催、大人の研究発表会、第7回目！今年はおなたも発表側になりませんか？

も一ん父さん名刺

NEW ARRIVAL!

お出かけに大忙しのも一ん父さん。これまでの4種に加えて、新たな4種類の新しい名刺が仕上がりました！も一ん父さんの名刺の特徴は、裏面写真が町内や博物館のPRを兼ねたものであること。今回は「本栖湖と富士山」、「甲州いろは坂・国道300号」、「下部温泉駅」、「博物館砂金採り体験室」にそれぞれの一言が加わったスタッフのもんちち愛とともに、写真撮影にも構図にもキャッチコピーにも、苦心が費やされた“作品”です。ちなみに、いろは坂バージョン名刺は、山梨を舞台とし、主人公たちの通学シーンや活動シーンに、身延町の実在風景が多々登場している、この冬アニメ「ゆるキャン△」をインスパイアしているもの。“聖地巡礼”のため身延町に訪れたファンたちにとっては嬉しいかもしれない一枚です。

も一ん父さんの名刺をほしい方は、博物館で申し伝えていただくか、も一ん父さんのお出かけ時のアテンドさんに声掛けしてください。



身延線全通90周年記念 写真パネル展 みんなの身延線 思い出の電車たち

平成30年4月21日(土)～7月1日(日)

わが湯之奥金山博物館の正面玄関前からは、下部川の流れの向こうに、身延線の電車が通過するのを見ることができます。そうです、当館は身延線沿線の見どころの1つといえ、ご来館の皆さまの中には、最寄り駅の「下部温泉駅」を利用される方が多くいらっしゃいます。当館と身延線は、大の仲良しなのであります。

その身延線は、現在はJR東海さんによって運行されていますが、その前は「国鉄」で、その前は……。

ということで、地域を支えてくれている身延線にも、長い歴史がありまして、今年(2018年)の3月で、東海道本線富士駅と中央線甲府駅を結ぶ全線が開通して90周年を迎えます。

そこで当館では、そのお祝いの気持ちを込めて、身延線の歴史をはじめ、電車や保線などについてのあれこれをパネルにして、エントランスホールにおいて展示いたします。

JR東海・身延駅や湯之奥金山博物館応援団の皆さんからご提供いただいた写真資料に、当館館長のコレクションなどまじえて構成される写真パネル展です。どんな中身になりますやら、乞うご期待!



編集後記

この季節はなんといっても桜抜きには語れません。ぱっと咲いてパツと散る桜の花の潔さは誰もが知るところ。薄ピンク色に包まれた幻想的な空間は、本格的な春の訪れを教えてくれ、花を二輪三輪つけながらも葉桜になった時には今度はこれから訪れる新緑の季節を教えてくれます。せっかく桜の花を愛でるこの国に生まれたのだから、毎日のせわしさや忙しさをほんの少し横に置いて、「お花見」で心に少し休息を与えてあげることも必要です。それはちょっとした「自分へのご褒美」として。そう考えると「ご褒美」って意外に近くにあるものです。博物館周辺にもこの時期には6種類もの桜が時期を少しずつずらしながら、目を楽しませてくれます。砂金採りを楽しみながら桜をご覧になる“ご褒美”もオツなもの。暖かくなってきましたし是非おでかけください。

さて、間もなく迎える新年度は、博物館スタッフの顔ぶれも新しくなりますが、これまでの館の目標や方針は変わりません。今年も訪れた皆様に楽しんでいただけるよう、いろいろ計画しています。もーん父さんも頑張りますので、変わらずどうぞよろしく願いいたします。

6月までの開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休館日：毎週水曜日(水曜日が祝日の場合はその翌日)

博物館だより

第83号 平成30年3月29日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん  